



アルル「ねえ、みきちゃん下を見て。」

みきちゃん「はビックリ。なんと、からだがふわふわしてアルルでいたのは、みきちゃんの体が風船のようについていたからです。」

みき「私どうしちゃったの？教室には私がいる。なに？」

アルル「みきちゃんはいま、アルルの世界にいるの。みきちゃんがいっつもいっつも体に良くないことばかりしているから、「このままじゃあ、本当に病気になっちゃうんじゃないかって、心配で。こうやってみきちゃんに会いに来たってわけよ。」

みき「病気？私元気よ！」

アルル「ホント？いま体育の後、しんどいっていったじゃない」

みき「あれは…なわとびしすぎたからだよ」

アルル「ホントにそうかな、じゃ、いまからアルルと一緒にみきちゃんの様子見ましようよ」

みきちゃんは、自分の様子を見ることがよくわかりませんでした。が、ふわふわとんでるのも楽しいので、アルルと一緒に見ることにしました。